

# ルカによる福音書 15 章における 三つの譬えについて

—— Luther 訳聖書と現代ドイツ語訳聖書に基いて ——

( 1 )

角 谷 善 朗

## I 序

イエス・キリストの地上での言行は、マタイ、マルコ、ルカそしてヨハネの四福音書と使徒行伝で伝えられている。

イエスは教えを説くに際して、マルコ伝 4 章 33・34 節<sup>1)</sup>で明かされている様に、譬えを積極的に活用して、聴衆を巧みに啓発されたのである。

日頃専ら眼前に展開する世界に注目して、抽象的な不可視の問題を考えることに慣れていない人々、取り分け一般大衆に、神の本質や働きのような問題について教え導びくためには、馴染み易く、容易く理解出来る様に、身近な出来事に譬えて話して聴かせた<sup>2)</sup>のであった。

マタイ、マルコそしてルカの三福音書に記載されている譬えは、二つ或は三つ全ての複数の文書が共有しているものと、一つの文書に特有のものがある。分けてもヨハネ伝の譬えは、全てがヨハネ伝だけのものであって、他の文書に記録されているものは皆無である。

## II ルカ伝 15 章における *ἀπόλλυμι*

さてルカ伝 15 章では、いなくなった羊の譬え、無くした銀貨の譬え、そして放蕩息子の譬えなる標題が付けられている三つの譬えが語られている。三つのうちのいなくなった羊の譬えは、マタイ伝 18 章 12-14 節にも述べられている

るのであるが、あとの二つの無くした銀貨と放蕩息子の譬えは、ルカ伝だけが伝えているものである。

因みに、旧約或は旧約の古典語原典では、専ら古典語の本文だけが、更に Martin Luther 訳原典では、専ら古典語原文の直接訳だけが、収められているのであって、個々の譬えの内容を明示している標題が添えられるのは、Luther 訳に関しては、1912 年の現代語改訂版<sup>3)</sup>に至ってのことなのである。

ルカ伝 15 章の冒頭に掲げられている三つの表題は、Gleichnisse vom verlorenen Schaf, Groschen und Sohn であって、das verlorene Schaf, der verlorene Groschen そして der verlorene Sohn の 3 例の何れにおいても、等しく *verloren* が冠されている。これはギリシア語原典<sup>4)</sup>では三つの譬えに共通して、*ἀπόλλυμι* が用いられていることに基因しているのである。

*ἀπόλλυμι* は、いなくなった羊と放蕩息子の譬えの場合は *verlorengehen* の意味を、無くした銀貨の譬えの場合は、*verlieren* の意味を担っている<sup>5)</sup>と説かれている。

然るに Luther 訳原典においては、三つの譬えでは一様に *verlieren* が対応されているのであって、*verlieren* に依る対応は、1912 年の現代語改訂版においても、1984 年の最新の現代語改訂版<sup>6)</sup>に至っても保持されているのである。

Luk. 15, 6

frewet euch mit myr, denn ich habe meyn schaff funden, das verloren war, (1522.<sup>1)</sup>)

Denn ich habe mein Schaff funden, das verloren war, (1546.)

denn ich habe mein Schaf gefunden, das verloren war. (1912.)

denn ich habe mein Schaf gefunden, das verloren war. (1984.)

Luk. 15, 9

frewet euch mit myr, denn ich habe meynen grosschen funden den ich verloren hatte, (1522.<sup>1)</sup>)

Denn ich habe meinen grosschen funden, den ich verloren hatte. (1546.)

denn ich habe meinen Groschen gefunden, den ich verloren hatte. (1912.)

denn ich habe meinen Silbergroschen gefunden, den ich verloren hatte. (1984.)

Luk. 15, 24

denn diser meyn son war todt, vnnd ist widder lebend worden, er war verloren, vnd ist

funden worden, vnd fiengen widder an frolich zu seyn, (1522.<sup>1</sup>)

Er war verloren, vnd ist funden worden. (1546.)

er war verloren und ist gefunden worden. (1912.)

er war verloren und ist gefunden worden. (1948.)

Luk. 15, 32

du soltist aber frolich vnd guttes mutts seyn, denn diser deyn bruder war todt vnd ist widder lebend worden, er war verloren, vnnd ist widder funden. (1522.<sup>1</sup>)

Er war verloren, vnd ist wider funden. (1546.)

er war verloren und ist wieder gefunden. (1912.)

er war verloren und ist wieder gefunden. (1984.)

そして Ulrich Zwingli (1484 - 1531) が訳出した Zürcher Bibel<sup>7)</sup>は、宗教改革期に刊行された各種のドイツ語訳聖書のうちで、Luther の訳業に追随することなく、eine genaue Wiedergabe des Urtextes<sup>8)</sup>と認められている精密な翻訳であって、Luther 訳聖書と並び得る訳業として、高く評価されている<sup>9)</sup>のである。

Zürcher Bibel で、ἀπολλυμι に当てられている訳語は、原典においても、次に 1931 年の現代語改訂版<sup>10)</sup>においても、押し並べて verlieren が対応されているのである。

Luk. 15, 6

dañ ich hab meyn schaff funden das verloren was. (1531.)

denn ich habe mein Schaf gefunden, das verloren war. (1931.)

Luk. 15, 9

dann ich hab meynen groschen funden den ich verloren hatt. (1531.)

denn ich habe die Drachme gefunden, die ich verloren hatte. (1931.)

Luk. 15, 24

er was verloren / vñ ist funden worden. (1531.)

er war verloren und ist wiedergefunden worden. (1931.)

Luk. 15, 32

er was verloren / vnnd ist wider funden. (1531.)

und [war] verloren und ist wiedergefunden worden. (1931.)

さて Luther 訳原典及び現代語改訂版、そして Zürcher Bibel 及び現代語改訂版における例証の報告に引き続いて、現代ドイツ語聖書のうちで、取り分けて注

目に値する 4 点を採り上げて、各々の調査結果を紹介したい。

先ず古典語学者 Hermann Menge (1841 - 1939) の Mengebibel<sup>11)</sup>は、sprachliche Genauigkeit im engen Anschluß an den Grundtext 並びに verständliches und klares Deutsch<sup>12)</sup>を主眼とした入念な訳業であって、言語学的・文献学的な素養が生かされた綿密な訳出は高く評価されている<sup>13)</sup>のである。

Menge はルカ伝 15 章の ἀπόλλυμι に、いなくなった羊の譬えでは verloren gehen を、無くした銀貨の譬えでは verlieren を、放蕩息子の譬えでは、24 節は verlieren, 32 節は verloren gehen を対応しているのである。

次なる訳業は、Karl Heinrich Rengstorff に依る Das Evangelium nach Lukas<sup>14)</sup>であって、Das Neue Testament Deutsch の一冊として、第 3 巻目に収められている。Das Neue Testament Deutsch は全 11 巻から成る新約聖書の註釈叢書であって、諸家が諸文書を分担して、翻訳に当たり且つ詳細な注解を施した所産の集大成である。当時の新約学の最新の研究成果を存分に踏まえた精密な訳業として、Mengebibel 以降のドイツ語訳聖書のうちで最も重んじられている<sup>15)</sup>のである。

第 3 冊目は、Altes und Neues Testament in neuer Einheitsübersetzung<sup>16)</sup>である。旧教の聖書協会は聖書の新たな翻訳を計画し、実現を目指した。新教の聖書協会もこの計画の推進に尽力したのであった。斯くて旧教と新教の共同作業の成果として、統一訳聖書が刊行されたのであった。

この訳業もドイツ語は格調高く、eine klare, verlässliche und verständliche Übersetzung<sup>17)</sup>として、高い評価を受けているのである。

残る 1 点は、Die Bibel in heutigem Deutsch. Die Gute Nachricht<sup>18)</sup>である。若い年齢層や教会に頼らない人々を対象<sup>19)</sup>として、まったく平明なドイツ語で書かれている<sup>20)</sup>のである。平明な表現を旨とする Die Gute Nachricht は、正にこの点が多数の読者を引き付けて、発行部数は他を凌駕しているものに及んでいるのである。

さてルカ伝 15 章における ἀπόλλυμι の原義と Menge の対応については、先に報告を済ませている。その際 Menge は 24 節では verloren gehen を用いないで、verlieren を当てていることを指摘したのである。

残る 3 点の訳業に関しては、その何れにおいても、4 例の ἀπόλλυμι には一

様に verlieren を対応しているのである。

Luk. 15, 6

denn ich habe mein Schaf wiedergefunden, das verloren gegangen war. (Menge 1961)

denn ich habe mein Schaf gefunden, das verloren war! (Rengstorf 1966)

ich habe mein Schaf wiedergefunden, das verloren war. (Einheitsübersetzung 1976)

ich habe mein verlorenes Schaf wiedergefunden! (Die Gute Nachricht 1984)

Luk. 15, 9

denn ich habe die Drachme wiedergefunden, die ich verloren hatte. (Menge 1961)

denn ich habe die Drachme gefunden, die ich verloren hatte! (Rengstorf 1966)

ich habe das Geld wiedergefunden, das ich verloren hatte. (Einheitsübersetzung 1976)

ich habe die verlorene Münze wiedergefunden! (Die Gute Nachricht 1984)

Luk. 15, 24

Denn dieser mein Sohn war tot und ist wieder lebendig geworden, er war verloren und ist wiedergefunden! (Menge 1961)

dieser mein Sohn... war verloren und ist nun wiedergefunden! (Rengstorf 1966)

er war verloren und ist wieder gefunden. (Einheitsübersetzung 1976)

Er war verloren, jetzt ist er wiedergefunden. (Die Gute Nachricht 1984)

Luk. 15, 32

er war verloren gegangen und ist wiedergefunden worden. (Menge 1961)

dieser dein Bruder...war verloren und ist nun wiedergefunden! (Rengstorf 1966)

er war verloren und wurde wieder gefunden. (Einheitsübersetzung 1976)

Er war verloren, aber jetzt ist er wiedergefunden! (Die Gute Nachricht 1984)

さてルカは、14章28－35節でイエスが群衆に向かって自分の弟子になるための覚悟について論ずるに当たって、先ず櫓の譬えと戦の譬え (Gleisnisse vom Turmbau und vom Krieg) を対比して述べてから、塩の譬え (Ausspruch vom Salz<sup>21)</sup>) で締め括っている。

15章においても、das verlorene Schaf と der verlorene Groschen の譬えを対にして挙げてから、der verlorene Sohn の譬えで教えを結んでいるのである。この様にイエスが、三つの譬え (Gleichniskleeblatt<sup>22)</sup>) に拠って、入念に教えを説いている場面を記述しているのは、ルカ伝だけが伝えているものであると指摘されている<sup>23)</sup>。

### Ⅲ イエスの<sup>つみびと</sup>罪人と取税人への恩恵

15章の三つの譬えは、パリサイ人と律法学者が揃って、イエスは<sup>つみびと</sup>罪人と取税人と別け隔てなく接して、食事まで共にしていると非難の言葉を吐くのに対して、イエスが自分の言動は何等咎められるものではないことを明かすために、語られたものである。

パリサイ人は、古代ユダヤ教徒の主流派であって、律法と言い伝えを遵守して、信仰も篤く、敬虔に行い澄ましているものの、民を義人と<sup>つみびと</sup>罪人に二分したのであった。義人は民の一部を占めるに過ぎないのであるが、自分達も義人に含めて、義人だけが神の恩恵に肖れるとして、<sup>つみびと</sup>罪人と明確に差別している<sup>24)</sup>のである。

律法学者は、律法の研究と教授に携わる神学者である。そしてその大多数を占めていたのはパリサイ人であって、それに少数のサドカイ人が加わっているのである。

民の多くを占めている<sup>つみびと</sup>罪人は、俗に言う様な法を犯す行為はしていないにも拘わらず、パリサイ人から、律法を厳守していない生き方をしていると見做されて、軽蔑されていた<sup>25)</sup>のである。

取税人は、ローマ政府やヘロデ家の苛酷な徴税に実際に携わっているにとどまらず、権力を笠に着て、私腹を肥やしていると言う廉で、ユダヤ人から罪人と並んで非難的となっていた<sup>26)</sup>のである。

それ故にイエスがこの様に卑められている人々と親しくして、一緒に食卓まで囲んだのは、卑しい人々と食卓に着けば穢れると言う当時のユダヤの社会通念に照らすと、思いも寄らぬ所業であったのである。従ってこの様に振る舞うイエスが神の国の福音を伝えることは、パリサイ人と律法学者にとって、取りも直さず神に対する冒瀆行為であったのである。

斯かる非難をイエスは一向に意に介さないで、平然として蔑まれていた人々に温かく接したのである。

当時の律法学者にとって、旧約の数多い律法の内どれが最大のものであるかを探求することは切実な問題であったが、この問いにしてイエスは、マタイ

伝 12 章に記載されている如く、先ず第一が神への直向きな愛（出典は申命記 6 章 4 節）、次は隣人への愛（出典はレビ記 19 章 18 節）の二つであると答えている。

Du solt lieben gott deynen herren von gantzem hertzen, von gantzer seelen, von gantzem gemuete, ditz ist das furnemst vnnnd das grosse gepot. Das ander aber ist dem gleych, Du solt deynen nehisten lieben als dich selbst, Jnn dissen tzweyen gepotten hanget das gantz gesetz vnnnd die propheten. (1522.<sup>1</sup> Matth. 22, 37 - 40.)

Du solt lieben Gott deinen HERRN, von gantzem hertzen, von gantzer seelen, von gantzem gemüte, Dis ist das furnemest vnd gröste Gebot. Das ander ist dem gleich, Du solt deinen Nehesten lieben, als dich selbs. Jn diesen zweien geboten hanget das gantze Gesetz vnd die Propheten. (1546.)

イエスのこの発言を踏まえると、イエスが罪人と取税人と親しく接したのは、彼が最大二つの律法の内「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ<sup>27)</sup>」の教えを体して、身を以て実践した行いに外ならないのである。イエスは自分は律法と預言者を成就するために来た<sup>28)</sup>ことを公言して憚らず、事実言動はそれに違<sup>たが</sup>うものではなかったのである。

斯くてイエスは、単に言うだけで、行動に移そうとしない律法学者とパリサイ人<sup>29)</sup>を偽善者として、痛烈に批判したのであった。彼は傲慢なパリサイ人と謙虚な取税人を対比させて、自分を義人だと自負して、他人を軽蔑しているパリサイ人よりも、自分が罪人であることを痛感して、神に一途に許しを請う取税人の方が、敬虔であって神に義とされることを力説して、「おおよそ、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう<sup>30)</sup>」と教えているのである。

さてルカ伝 5 章においても、パリサイ人と律法学者が、イエスが取税人や罪人と食卓に着いているのを詰った状況が記述されている。

その際にイエスは、先ず「健康な人には医者はいらない。いるのは病人である<sup>31)</sup>」から話し始めて、上辺は律法を遵守している健康な者をパリサイ人と律法学者に、イエスの助けを必要とする病人を取税人と罪人と<sup>つみびと</sup>譬えている<sup>32)</sup>。次

いで「わたしがきたのは、義人を招くためではなく、<sup>つみびと</sup>罪人を招いて悔い改めさせるためである<sup>33)</sup>」と告げて、彼が蔑まれている人々に親しく接する理由について明らかにしているのである。併し乍らこの発言はこれだけを伝えているのではなく、イエスがこの世に誕生した目的・使命についても明らかにしているのである。

この発言は極めて重要なものであるので、マタイ伝9章13節及びマルコ伝2章17節においても、取り上げられているのである。

イエスが斯様に博愛を説き且つ実践出来たのは、彼が中風を患っていた者を治した際に、律法学者とパリサイ人に向かって、「人の子は地上で罪をゆるす権威を持っている<sup>34)</sup>」と明確に知らせている通りに、イエスは天で神だけが持っている赦す権威を、地上でただ独り持っていたからである。然ればこそイエスは毅然として自らの使命を遂行して行くことが出来たのである。

この発言も極めて重要なものであるので、マタイ伝9章6節並びにマルコ伝2章10節においても、記載されているのである。

さてイエスは<sup>つみびと</sup>罪人と取税人に親しく接して、食事の席に連なった。これは当時の社会通念を全く無視した振る舞いであったのである。にも拘らず彼は敢えて強硬な態度に出たのであるから、彼の斯かる言動の因って来たとところが、大いに注目されるのである。

そもそも人は神の下にいる筈のものであるが、天国から地上へ迷って行って、そこで滅亡の危険に晒されるのである<sup>35)</sup>。罪を犯した者達は神の国に入れないと見做されているが、これは赦す権威を持っている神が到底容認し得るところではないのである。それ故に神は迷って仕舞った者達を見付け出して、悔い改めを呼び掛けるために、彼等を熱心に捜し求めるのであるから、斯くして遂に彼等を捜し出した時の神の喜びは、無上のものである。

神の意を体して博愛に徹しているイエスが<sup>つみびと</sup>罪人と取税人と食事を共にするのは、イエスが地上で虐げられている人々を赦したことを、神は飲んで受け入れてくれたと彼等に伝えて、なお且つそれを相和して、喜び合うためなのである。そして食事は地上での食事であっても、神の国における永遠の喜びの食事を、地上で前以て味わうことになるのである<sup>36)</sup>。



これに比して、パリサイ人も律法学者も、イエスの振る舞いの深意を些かも察することが叶わなかったのであるから、イエスに向かって、「そら、大飯食いだ、飲兵衛だ、税金取りと罪人の仲間だ<sup>37)</sup>」と非難を浴びせる外なかったのである。

#### IV ルカ伝 15 章における三つの譬え

三つの譬えのうち、百匹の羊のなかの一匹が道に迷ったら、九十九匹を置いてでも、その一匹を見付け出すまで捜しに行くという譬えと共通するものが、マタイ伝 18 章にも収められているのである。

Luk. 15, 4

wilch mensch ist vnter euch, der hundert schaff hat, vnnd so er der eyns verleuret, der nicht lasse die neun vnd neunzig ynn der wusten, vnnd hyn gehe nach dem verlornen, bis das er fynde? (1522.<sup>1)</sup>)

Welcher mensch ist vnter euch der hundert Schafe hat, vnd so er der eines verleuret, der nicht lasse die neun vnd neunzig in der wüsten, vnd hingehe nach dem verlornen, bis das ers finde? (1546.)

Matth. 18, 12

wenn yrgent eyn mensche hundert schaff hette, vnd eyns vnter den selben sich veryrrete, lessit er nitt die neun vnd neunzig auff den bergen, gehet hynn, vnnd sucht das veryrrete, (1522.<sup>1)</sup>)

Wenn jrgend ein Mensch hundert Schafe hette, vnd eins vnter den selbigen sich verirret? Lesst er nicht die neunvnd neunzig auff den Bergen, gehet hin, vnd suchet das verirrete? (1546.)

ルカ伝 15 章 4 節からは、ἀπόλλυμι に由来する das verlorene Schaf が新造されて、慣用句として用いられ、またマタイ伝 18 章 12 節からも、πλανῶω (= sich verlaufen haben<sup>38)</sup>) に対応している sich verirren 及び verirret を踏まえて<sup>39)</sup>、慣用句 ein verirrtes Schaf が造られているのである。

ところで現行の Luther 聖書においては、この譬えの個所が他の記述と分けられて、独自の標題が付けられている。これは 1956 年の現代語改訂版<sup>40)</sup>に至

つてのことである。尤もその標題には das verlorene Schaf が用いられているのであって、das verlorene Schaf は '56 年以降の '75 年更に '84 年の改訂版<sup>41)</sup>においても、保持されているのである。

さていなくなった羊の譬えにおける百匹と一匹について、マタイ伝とルカ伝の双方において等しく教えているのは、単なる「算術的損得の論理」ととどまらないで、その程度の論理をはるかに超えている「水準の事柄があるのだという<sup>42)</sup>」ことなのである。

とは言えマタイ伝の場合は、イエスが弟子たちに「小さな者を一人でも軽んじることのないように注意せよ<sup>43)</sup>」と懇ろに論し教えるに当たって、その一環として組み込まれている<sup>44)</sup>のである。

これに比してルカ伝の場合は、<sup>つみびと</sup>罪人と親しく交わるイエスを非難するパリサイ人と律法学者に対して、自らの言動の因って来たるところを、一切の前置きを抜きにして、三つの譬えを語ることに依って明らかにしているのである。そしていなくなった羊の譬えでは、例の一匹の羊を見付け出した時の大変な喜びようが詳述されている<sup>45)</sup>のである。これはルカ伝固有の注目に値する記述である。

さてルカ伝 15 章の三つの譬えが挙って、具体的に分かり易く説いているのは、ルカ伝 19 章 10 節のイエスの発言、「人の子がきたのは、失われたものを尋ね出して救うためである<sup>46)</sup>」においても簡潔且つ明確に表わされているところと相通じる、自らの使命を地上で実現することを目指す熱い志と失われた者 — <sup>つみびと</sup>罪人に注ぐ深い慈しみの念である。

イエスの使命の実現を主題としている三つの譬えにおいて、失われた者 — <sup>つみびと</sup>罪人に準えているのは、最初の譬えでは羊、次は銀貨、最後が二人息子のうちの弟である。そして先ず羊飼、次に貧しい女が、物言わぬ失われた者 — <sup>つみ</sup>罪 <sup>びと</sup>人を救済するために只管に捜し求める様子、次に見付け出して救えた時には、親しい人々と率直に喜び合う状景が語られている。

これに対して最後の弟の場合は、自らの意志で放縦な生活を送ることにするが、やがて生活は困窮を極めるに至る。斯くて弟は己の行いを悔い改めて、父に庇護を求める。父は悦んで弟を受け入れ様とするが、兄は父の決断を承服し

難い。そこで父は兄を思い直す様に論ずるのである。この譬えにおいては、失われた者——<sup>つみびと</sup>罪人は正しく人・弟であって、弟の墮落と改心、そして父と兄の弟に対する態度を巡って話は展開しているのであるから、卑近にして且つ切実である人の生き方と直接に係わっている譬えとして、極めて説得力に富んでいるものである。そしてこの譬えにおいても、失われた者を捜し出して、救済する神の大きな慈愛<sup>47)</sup>が語られているのである。

さてここで三つの譬え各々の訓戒について、新たに検討を加えることにしたい。

## V いなくなった羊と無くした銀貨の譬え

先ずいなくなった羊は、己れが愚かで無知であるために盲目的に快楽の衝動に駆られて、悪徳と恥辱の道に迷い込んで、神から離反してしまった若者達を表わしているのであって、イエスは慈悲深く且つ根気よく、彼等を見付けるまであとを追うのである<sup>48)</sup>。

そして百匹の羊のうちの九十九匹は、律法に忠実であると自任している義人のことである<sup>49)</sup>。僅か一匹を捜し出すのに、残りの九十九匹は野原に残しておくという譬えでは、イエスが失われた者を捜し出して受け入れる喜びは、義人の下では到底味わえないものであるから、失われた者の救済に直向きに取り組み姿勢が明らかにされているのである<sup>50)</sup>。

次のドラクマ銀貨は、1ドラクマ (Drache) は1デナリ (Denar) とほぼ等価で、農業労働者の日当に相当するのである<sup>51)</sup>から、貧しい女にとっては、全く軽視出来ない額である。

墮落した生活と誘惑に因って罪深い生活にうつつを抜かして、神の下へ戻る道を決して見付けることが出来ない者は、ドラクマ銀貨と同じである<sup>52)</sup>。それだからこそ、捜しあてなければ遂には無くなってしまふことになるのである<sup>53)</sup>。

貧しい女は無くした銀貨を明かりを点して箒で掃いて捜す。そして見付けると磨いて、残りの銀貨と一緒にするのであるから、この女の対処の仕方は、イ

エスが失われた者を救済するための行いと相通じるものがあるのである<sup>54)</sup>。

この二つの譬えにおいては、羊飼いの男に羊、貧しい女に銀貨が対比されていて、男は羊、女は銀貨、即ち両者ともに失せ物を苦勞して捜し回る事態になってしまう。とは言えその甲斐あって、最後には見付け出して友達や近所の人達と喜び合うことになって、話は締め括られるのであるから、二つの譬えの構成及び内容は、互に共通しているとする指摘<sup>55)</sup>は、肯綮に当たるものである。

更に銀貨を捜すに当たって、明かりを点して箒を使っている点については、その当時の庶民の暮らし振りが如実に反映しているのである。その頃の普通の人々の家はただ一部屋しかなく、家に扉はあったが、窓は開いていなかった。そして床は粘土を踏み固めて造られていたのであるから、貧しい女の行動は、斯かる生活環境の然らしめるところであった<sup>56)</sup>のである。

Luk. 15, 8

Oder wilch weyb ist, die zehen grosschen hatt, so sie der eynen verleuret, die nit eyne liecht antzunde vnd kere das haus vnd suche mit vleyß, bis das sie yhn finde? (1522.<sup>1)</sup>)

Oder, welch Weib ist, die zehen grosschen hat, so sie der einen verleurt, die nicht ein Liecht anzünde, vnd kere das haus, vnd suche mit vleis, bis das sie jn finde? (1546.)

さて Luther のドイツ語訳聖書の訳文或は訳語から、諺や格言、熟語・慣用句となった表現、更に二つの語を合成した新造語のうちの数多くのものが、ドイツ語に浸透して定着していることは、夙に指摘されている<sup>57)</sup>ところである。

ところで ein verirrtes Schaf, das verlorene Schaf, der verlorene Groschen, そして der verlorene Sohn は、何れも Luther が新造した表現でなくて、また聖書の原文に文字通りに対応する語句も求められないのであるが、ドイツ語訳聖書の普及に連れて、マタイ伝 18 章 12 節或はルカ伝 15 章の譬えに関連する譬喩的表現となって成立して、広く用いられることになったのである。

das verlorene (ein verlorenes) Schaf の用例として、Johann Friedrich Schiller (1759 - 1805) の処女作 Die Räuber. Ein Trauerspiel<sup>58)</sup> (1781) の第 2 幕第 3 場で、神父が Karl の手下の盗賊団に、Karl からの離叛を促す台詞の中で使われているものを挙げる事が出来る。

die heilige Kirche wird euch verlorne Schafe mit erneuerter Liebe in ihren Mutterschoß aufnehmen,

この verlorne Schafe は、關口存男訳「盜賊<sup>59)</sup>」において「迷へる羊」と訳出されているのである。それ以降の秦 豊吉訳「群盜<sup>60)</sup>」及び久保 榮訳「群盜<sup>61)</sup>」においても「迷へる羊」と、更に実吉捷郎訳「群盜<sup>62)</sup>」においては「さまよえる羊ども」と訳出されている。verlorne Schafe に当てられている二通りの訳語は、ルカ伝の記述に照らしても、何れも適切なものと見做せるのである。

さて神父が盜賊団に向かつて、Karl を引き渡せば、お前達の罪を問わないことにして、首領がいなくなったお前達・迷える羊に慈悲を掛けてやるぞと説得に努めているのであるから、この場面の verlorne Schafe は、ルカ伝 15 章 4 節の das verlorene Schaf にとどまらず、マタイ伝 10 章 6 節及び 15 章 24 節の die verlorene Schafe をも踏まえていることが指摘されている<sup>63)</sup>のである。

Matth. 10, 6 – 7.

Sondern gehet hyn tzu den verloren schafften aus dem haus Jsrael, geht aber vnnnd predigt, vnnnd spricht, das hymelreych ist nahe er bey komen, (1522.<sup>1)</sup>)

Sondern gehet hin zu den verloren Schafeten, aus dem hause Jsrael, Gehet aber vnd predigt, vnd spricht, Das Himelreich ist nahe her bey komen. (1546.)

Matth. 15, 24

ich bynn nicht gesand, denn nur zu den verloren schafften von dem haus Jsrael. (1522.<sup>1)</sup>)

Jeh bin nicht gesand, denn nur zu den verloren Schafeten, von dem hause Jsrael. (1546.)

マタイ伝 10 章 6 節においては、イエスは 12 人の弟子達を伝道に送り出す際に、伝道の対象は die verlorene Schafe だけに限る様に教え、15 章 24 節においては、自らは die verlorene Schafe に救いの手を差し延べるために遣わされた旨を明らかにしているのである。

神父が盜賊団に面と向かつて説得に努めるに当たって、自分は教会を代表する者であると自負して発言していて、その発言にはそれなりの重みを感じられる。この点について、イエスが己と弟子達に課せられた使命を公にする際に示

している気構えを依り所にしてしていると指摘している見解は、的を射たものと思われるのである。

そして die verlorren Schafe (いなくなった羊<sup>64</sup>) とは、マルコ伝 6 章 34 節並びにマタイ伝 9 章 36 節の「羊飼のいない羊<sup>65</sup>」、即ち指導者がいない状態の群衆と相通じていると解されている<sup>66</sup>。

Mark. 6, 34

vnnnd Jhesus gieng eraus, vnnnd sahe das grosse volck, vnnnd es iamert yhn der selben, denn sie waren, wie die schaff, die keynen hirtten haben, vnd fieng an eyn lange predigt (1522.<sup>1</sup>)

Denn sie waren wie die Schafe, die keinen Hirten haben. (1546.)

Matth 9, 36

vnnnd da er das volck sahe, iameret yhn des selbigen, denn sie waren verschmacht vnnnd zerstrawet wie die schaff, die keynen hirtten haben, (1522.<sup>1</sup>)

Denn sie waren verschmacht vnd zerstreuet wie die Schafe, die keinen Hirten haben. (1546.)

さてマタイ伝 18 章 12 節に由来する、ein verirrttes Schaf は、Luther 訳聖書では、ein verlorene Schaf より使用例は少ない。併し乍ら W. Friederich<sup>67</sup>に拠れば、人の道を踏み外した者の譬喩には、ein verirrttes Schaf が用いられていると指摘されている。

Ein guter Seelsorger ist jemand, der auch ein verirrttes Schaf wieder zur Herde zurtickzuholen vermag.

= ein Mensch, der den Pfad der Tugend verloren hat.

次に der verlorene (ein verlorener) Groschen の用例の調査報告に移る。とは言え der verlorene (ein verlorener) Groschen そのものの用例を見出だすことは叶わなかった。但しこれと深く関係している表現が多い<sup>68</sup>ことに気付かせられた次第である。

meine seele war der groschen,

der verlohren und verloschen:

aber nun ist er gefunden  
bey dem lichte deiner wunden

Ang. Silesius (1624 – 1667) seelenlust 70 ndr. (1657)

jede (ähre) macht uns freude, wie dem weibe sein verlorener und wiedergefundener  
groschen Jung-Stilling (1740 – 1817)

ところで Groschen は貨幣単位であると共に、古くから Geld の言換えとして、取り分けて軽蔑的な意味合いを帯びた僅かな金額を表わしていた<sup>69)</sup>のである。それに加えて Luther 訳新約のルカ伝 15 章の Groschen もこの意味合いを担っているの、これにも影響されて<sup>70)</sup>18 世紀以降に Groschen は端金を意味して盛んに用いられていると指摘されている<sup>71)</sup>のである。

そして正にこの用法での例証を、die Räuber の第 1 幕第 2 場において、盗賊仲間が金繰りの算段を言い立てる場面で、一味の Roller の台詞のうち得ることが出来る。

Wie wär's, dacht ich, wenn ihr euch hinsetzt und ein Taschenbuch oder einen Almanach oder so was Ähnliches zusammensudeltet und um den lieben Groschen rezensiertet, wie's wirklich Mode ist?

der liebe Groschen は、關口存男訳<sup>72)</sup>次いで秦 豊吉訳<sup>73)</sup>更に久保 榮訳<sup>74)</sup>においては、等しく「小遣」を対応しているのに対して、実吉捷郎訳<sup>75)</sup>に至って「小金」と訳出されているのである。

次に英訳聖書における「いなくなった羊」についての報告に移る。調査の対象とした英訳聖書は欽定訳聖書<sup>76)</sup>(The Authorized Version : King James Bible) である。

James 1 世 (1566 – 1625) は聖書註解の著述があって、当時の聖書の英訳に対する非難の声に同調して、「左右過激に走らない中庸を得た標準決定訳<sup>77)</sup>」の完成を待望するに至った。斯くて多くの学者が翻訳活動に加わって、1611 年欽定訳聖書 (The Authorised (King James) Version) が出版されたのである。

欽定訳聖書は 1528 年刊行の William Tyndale 訳聖書以降の多くの訳業を逐一参照した、「いわば総決算的な訳<sup>78)</sup>」であって、その成果は数多い英訳聖書の

うちで最も高く評価されているのである。そして時の推移に伴って、聖書学の諸分野の研究の発展及び英語の各々の時期における趨勢に対応して、改訂作業が続けられて来ているのである。とは言え、今日の現代英語に活着している慣用語句は、欽定訳聖書の慣用語句がその源になるとの指摘<sup>79)</sup>が証している様に、欽定訳聖書の英語は現代英語と極めて密接な関係を保っているのである。

さてルカ伝 15 章の三つの譬えの標題の成立に関わっている 6 節, 9 節, 24 節そして 32 節の訳文を、欽定訳及び 1901 年刊行の改訂版と 1952 年刊行の改訂版から引用する。なお欽定訳は実際は改訂版を使用しているのであるが、便宜上 KJV と表示することにする。

2 点の改訂版のうち、1901 年のアメリカ標準訳聖書 (American Standard Version = ASV) は、1885 年のイギリス改訂版聖書 (The Revised Version = RV) の改訂作業に加わったアメリカ側の委員がイギリス側の、原典に忠実な逐語訳を目標としている方針に異議を唱えて、独自に改訂を加えた成果である<sup>80)</sup>。

次いで 1952 年の改訂標準訳聖書 (The Revised Standard Version = RSV) は、素朴で力強い欽定訳の文体を保持して乍ら、平易な現代語訳になっているので、この点が高く評価されて、熱烈に歓迎されるに至った<sup>81)</sup>のである。

Luke 15, 6

for I have found my sheep which was lost. (KJV)

for I have found my sheep which was lost. (ASV)

for I have found my sheep which was lost. (RSV)

Luke 15, 9

for I have found the piece which I had lost. (KJV)

for I have found the piece which I had lost. (ASV)

for I have found the coin which I had lost. (RSV)

Luke 15. 24

For this my son was dead, and is alive again; he was lost, and is found. (KJV)

he was lost, and is found. (ASV)

he was lost, and is found. (RSV)

Luke 15. 32

for this thy brother was dead, and is alive again; and was lost, and is found. (KJV)

for this your brother was dead, and is alive again; he was lost and is found. (ASV)



for this your brother was dead, and is alive; he was lost, and is found. (RSV)

32 節の KJV の引用文には thy が使用されているのは、注目されるところである。

さて KJV と ASV において、いなくなった羊の譬えに対応している標題は the lost sheep であって、das verlorene Schaf と相通じるものである。英語では the lost sheep の他に the stray sheep も用いられているのである。

the stray sheep はマタイ伝 18 章 12 節及びイザヤ書 53 章 6 節<sup>82)</sup>の訳文のうちの astray (= out of the right way<sup>83)</sup>) から、造られたと推定される。併し乍らマタイ伝 18 章 12 節の標題には the stray sheep ではなく、the lost sheep が用いられているのである。

Matt. 18, 12

How think ye? if a man have an hundred sheep, and one of them be gone astray, doth he not leave the ninety and nine, and goeth into the mountains, and seeketh that which is gone astray? (KJV)

How think ye? if any man have a hundred sheep, and one of them be gone astray, doth he not leave the ninety and nine, and go unto the mountains, and seek that which goeth astray? (ASV)

What do you think? If a man has a hundred sheep, and one of them has gone astray, does he not leave the ninety-nine on the hills and go in search of the one that went astray? (RSV)

KJV において goeth 及び seeketh, ASV において goeth で確かめられる様に、動詞は三人称単数語尾に -eth を付けている。

Isa. 53, 6

All we like sheep have gone astray; we have turned every one to his own way; (KJV)

All we like sheep have gone astray; we have turned every one to his own way; (ASV)

All we like sheep have gone astray;

we have turned everyone to his own way; (RSV)

the stray sheep の使用頻度は高い。この用例を Ch. Dickens (1812 - 70) の

David Copperfield (1849 - 50) の第 2 章<sup>84)</sup>から引用することにする。

I look at the sunlight coming in at the open door through the porch, and there I see a stray sheep — I don't mean a sinner, but mutton half making up his mind to come into the church.

ii

この部分は市川又彦訳「デイヴィッド・コパフィールド<sup>85)</sup>」においては、「玄関から、開いているドアへ差し込んで来る日の光を見ると、そこには、さ迷える一匹の羊 — 罪人のことではなくて、本物の羊なのだ — 教會の中へはいり込もうと、どうやら腹をきめたところだ。」と訳出されていて、stray sheep には「さ迷える羊」、sinner には「罪人」が対応されているのである。

stray sheep と sinner は、中野好夫訳<sup>86)</sup>では「迷える羊；罪人」、石塚裕子訳<sup>87)</sup>では「さ迷える羊；罪人」、田辺洋子訳<sup>88)</sup>では「迷える羊；罪人」と訳出されているのである。

さて das verlorene Schaf 及び der verlorene Groschen の譬えにおいては、救済される罪人は物言えぬ失われたもの、羊と銀貨に譬えられているのに対して、der verlorene Sohn の譬えに至っては、直に物言う人を登場させて思うところを言わせて、罪人救済の問題に正面から取り組んでいるのである。

三名の登場人物それぞれの人柄や物の見方を的確に書き分けていると共に、救済に至るまでの過程はイエスの時代の社会の慣習或は通念を踏まえているものであるから、譬えは構成も展開も実生活も深く係わり合っていて、血の通ったものになっているのである。

der verlorene Sohn の譬えにおいては、聖書の数多い譬えのうちで、イエスの教えの主要なものが示されていると共に、身近に感じられるものであるから、広く知られているのも宜諾なるかなである。

ところで KJV においては三つの譬えの標題は、the lost sheep, the lost coin そして the lost son であって、原典の ἀπόλλυμι にも沿ったものになっているのであるのに、ASV に至っては、the Lost Sheep, the lost piece of Silver そして the Prodigal Son となつて、lost は prodigal (= verschwenderisch<sup>89)</sup>) に変更されているのである。更に RSV では The Prodigal Son が 15 章全般の標題になっている。

der verlorene Sohn の譬えには、lost の prodigal への変更でも視える様に、注目に値する問題点は数多い。それらについての調査報告は、稿を新たにして明らかにすることにした。

(2015・9・28)

## 註

- 1) Martin Luther (1483 – 1546) 訳原典の訳文は、1522 年 9 月刊行の初版と 1546 年刊行の版のものを引用する。  
 Vnnd durch viele solche gleychnisse saget er yhn das wortt, nach dem sie es horen kunden, vnnd on gleychnis redet er nicht zu yhn, (1522.<sup>1</sup> Mark. 4, 33・34)  
 Vnd durch viele solche gleichnisse saget er jnen das wort, nach dem sie es hören kundten, vnd on gleichnis redet er nichts zu jenen. (1546.)  
 Luther 訳原典の調査テキスト：D. Martin Luthers Werke Kritische Gesamtausgabe (Weimarer Ausgabe) Die Deutsche Bibel Bd. 6 – 12. Weimar 1919 – 1960.  
 Bd. 6, 7 が新約正典, Bd. 8 – 11. (7 Bücher) が旧約正典, Bd. 12 が旧約外典を取  
 り込んでいる。
- 2) E. Thimme : Gleichnis. In : Biblisch - Theologisches Handwörterbuch zur Lutherbibel und zu neueren Übersetzungen. hrsg. von E. Osterloh u. H. Engelland. 3., Aufl. 1964.
- 3) Die Bibel oder die ganze Heilige Schrift des Alten und Neuen Testaments nach der deutschen Übersetzung D. Martin Luthers. nach dem 1912 vom Deutschen Evangelischen Kirchenausschuß genehmigten Text.
- 4) E. Nestle et K. Aland: Novum testamentum graece. 25., Aufl. 1967.
- 5) W. Bauer : Griechisch - deutsches Wörterbuch zu den Schriften des Neuen Testaments und der frühchristlichen Literatur. 6., völlig neu bearbeitete Aufl. hrsg. von K. Aland u. B. Aland 1988.
- 6) Die Bibel mit Apokryphen. Nach der Übersetzung Martin Luthers 1985. (旧約正典は 1964 年, 旧約外典は 1970 年, 新約正典は 1984 年改訂の成果を取っている)
- 7) Zürcher Bibel の調査テキスト Die Zürcher Bibel von 1531. 1983. Zwingli の生誕 500 年の記念出版で、1531 年発行の原本の縮写複製版である。  
 Zürcher Bibel は 1529 年に完成。2 部に分割されて、第 1 部は同年に、第 2 部は翌 30 年に発行された。因みに、Luther 訳の Die ganze Heilige Schrift・完訳聖書の刊行は 1534 年であるから、それに先んじた刊行なのである。
- 8) Hanz Volz : Die auswärtigen Nachdrucke der Lutherbibel Zürich. In : Martin Luthers

- deutsche Bibel 1978.
- 9) Otto Weber : Grundriß der Bibelkunde. 8. Aufl. 1965, 2. 4. d) *Deutsche Bibeln*.
  - 10) Zürcher Bibel. Nach der Übersetzung Ulrich Zwinglis revidierter Text 1931. 2. Aufl. 1942.
  - 11) Hermann Menge : Die Heilige Schrift des Alten und Neuen Testaments. 11. Aufl. 1961.
  - 12) Die Bibel für unsere Zeit Neue Bibelübersetzungen. In : Handbuch zur Bibel. hrsg. von D. u. P. Alexander. 7., überarbeitete Aufl. 1991.
  - 13) 塩谷 饒 : ルター聖書 抜粋・訳注 1983. III ドイツ語聖書翻訳の歩み 4 別の新しい翻訳。
  - 14) Das Neue Testament Deutsch Teilband 3 Das Evangelium nach Lukas übersetzt und erklärt von K. H. Rengstorf 11., Aufl. 1966.
  - 15) 註 2) の Biblisch - Theologisches Handwörterbuch zur Lutherbibel und zu neueren Übersetzungen において, neuere Übersetzungen のうちに採り上げられて, neu bearbeitete Zürcher Bibel, Mengebibel, 20 冊を超える Das Alte Testament Deutsch と列記されている。
  - 16) Die Bibel Altes und Neues Testament in neuer Einheitsübersetzung, 5 Bände mit 3500 Farbbildern herg. von Sr. Dr. Mirjam Prager OSB. und Univ.-Dog. Dr. Günter Stember 4., Aufl. 1976.
  - 17) 註 12) と同じ。
  - 18) Die Bibel in heutigem Deutsch Die Gute Nachricht des Alten und Neuen Testaments. 2., durchgesehene Aufl. 1984.
  - 19) 註 12) と同じ。
  - 20) 註 13) と同じ。
  - 21) 三つの譬えのドイツ語の標題は, 註 10) の neu bearbeitete Zürcher Bibel からの引用である。
  - 22) Die Erklärungen zu Luk. 15, 1 – 3. In: Jubiläumsbibel mit erklärenden Anmerkungen Die Bibel oder die ganze Heilige Schrift des Alten und Neuen Testaments nach der deutschen Übersetzung Martin Luthers mit erklärenden Anmerkungen 1964.
  - 23) 榎原康夫 : ルカの福音書 (五) 悔い改めた罪人 (一五 1 – 32)。増田誉雄・村瀬俊夫・山口昇編 : 新聖書注解 新約 I マタイの福音書 – ヨハネの福音書 1990。
  - 24) Die Erklärungen zu Luk. 5, 8 – 9. In : K. H. Rengstorf : Das Evangelium nach Lukas.
  - 25) 註 24) と同じ。
  - 26) Die Erklärungen zu Luk. 3, 12 – 13. In : K. H. Rengstorf : Das Evangelium nach Lukas.
  - 27) マタイによる福音書 22 章 39 節 日本聖書協会 新約聖書 1954 年改訳。
  - 28) Jhr sollt nit wehnen, das ich komen byn das gesetz odder die propheten auff zu losen, ich byn nit kommen auff zulosen, sondernn zu erfüllen, (1522.<sup>1</sup> Matth. 5, 17)

- JR solt nicht wehnen, das ich kommen bin, das Gesetz oder die Propheten auffzulösen, Jch bin nicht komen auffzulösen sondern zu erfüllen. (1546.)
- 29) Alles nu was sie euch sagen, das yhr halten sollet, das haltet, vnd thuets, aber nach yhren wercken, solt yhr nicht thun, sie sagens woll, vnd thuns nit. (1522.<sup>1</sup> Matth. 23, 3)
- Alles nu was sie euch sagen, das jr halten sollet, das haltet vnd thuts, Aber nach jren wercken solt jr nicht thun, Sie sagens wol, vnd thuns nicht. (1546.)
- 30) ルカによる福音書 18 章 14 節 出典の新約は日本聖書協会訳。
- Denn wer sich selbs erhoht, der wirt ernydriht werden, vnd wer sich selbs ernydrihtet, der wirt erhoht werden. (1522.<sup>1</sup> Luk. 18, 14)
- Denn wer sich selbs erhôhet, der wird ernidriget werden, Vnd wer sich selbs ernidriget, der wird erhôhet werden. (1546)
- 31) ルカによる福音書 5 章 31 節 出典の新約は日本聖書協会訳。
- Die gesunden durffen des artzts nit, sondernn die krancken, (1522.<sup>1</sup> Luk. 5, 31)
- Die Gesunden dürffen des Artztes nicht, sondern die Krancken. (1546.)
- 32) Die Erklärung zu Matth. 9, 12 (= Luk. 5, 31) In : Das Neue Testament in die Sprache der Gegenwart übersetzt und kurz erläutert von Ludwig Albrecht. 9., Aufl. 1962.
- 33) ルカによる福音書 5 章 32 節 出典の新約は日本聖書協会訳。
- ich bynn komen zu ruffen den sundern zur busse vnnd nicht den gerechten. (1522.<sup>1</sup> Luk. 5, 32)
- Ich bin komen zu ruffen den Sündern zur busse, vnd nicht den gerechten. (1546.)
- 34) ルカによる福音書 5 章 24 節 出典の新約は日本聖書協会訳。
- Auff das yhr aber wisset, das des menschen son macht hatt auff erden sund zuuergeben, (1522.<sup>1</sup> Luk. 5, 24)
- Auff das jr aber wisset, das des menschen Son macht hat auff Erden, sünde zu vergeben, (1546.)
- 35) 小川治郎：ルカによる福音書注解一五・一 - 一七 いなくなった羊の譬。山谷省吾・高柳伊三郎・小川治郎編集：新約聖書略解 1965。
- 36) Die Erklärungen zu Luk. 15, 3 - 7. In : Stuttgarter Erklärungsbibel. Die Heilige Schrift nach der Übersetzung Martin Luthers mit Einführungen und Erklärungen 1992.
- 37) ルカ福音書 7 章 34 節, マタイ福音書 11 章 19 節 塚本虎二訳：福音書 昭和 39 年。
- sihe, der mensch ist eyn fresser vnd weynseuffer, der zollner vnd der sunder freund, (1522.<sup>1</sup> Luk. 7, 34)
- sihe der Mensch ist ein Fresser vnd Weinseuffer, der zölner vnd Sünder freund. (1546.)
- 38) 註 5) の Griechisch - deutsches Wörterbuch zu den Schriften des Neuen Testaments und

der frühchristlichen Literatur.

- 39) A. Götzte : Trübners Deutsches Wörterbuch. Bd. 7. In Zusammenarbeit mit E. Brodführer, M. Gottschald, A. Schirmer hrsg. von W. Mitzka. 1956.
- 40) Das Neue Testament nach der Übersetzung Martin Luthers Revidierter Text 1956 1967.
- 41) Das Neue Testament nach der Übersetzung Martin Luthers Revidierter Text 1975 1976.  
Das Neue Testament nach der Übersetzung Martin Luthers Revidierter Text 1984 1985.
- 42) 田川建三訳著 新約聖書 訳と註 第二巻上 ルカ福音書 2011. 本文への註 15 章 1 ～ 7。
- 43) マタイ福音書 18 章 10 節 註 37) の塚本虎二訳。  
Sehet zu, das yhr nicht verachtet yemand von disen kleynen, (1522.<sup>1</sup>)  
SEhet zu, das jr nicht jemand von diesen Kleinen verachtet, (1546.)
- 44) Die Erklärungen zu Matthäus 18, 13. In : Das Neue Testament Deutsch Teilband 2 Das Evangelium nach Matthäus übersetzt und erklärt von E. Schweizer 1973.
- 45) Vnd wenn ers funden hat, so legt ers auff seyne ackßeln mit freuden, vnd wenn er heym kompt, rufft er seynen freunden vnd nachparn, vnd spricht zu yhnen, frewet euch mit myr, denn ich habe meyn schaff funden, das verloren war, (1522.<sup>1</sup> Luk. 15, 5. 6.)  
Vnd wenn ers funden hat, so leget ers auff seine achseln mit freuden. Vnd wenn er heim kompt, ruffet er seinen Freunden vnd Nachbarn, vnd spricht zu jnen, Frewet euch mit mir, Denn ich habe mein Schaff funden, das verloren war. (1546.)
- 46) ルカによる福音書 19 章 10 節 出典の新約は日本聖書協会訳。  
denn des menschen son ist komen zu suchen vnd selig zu machen das verloren ist. (1522.<sup>1</sup>)  
Denn des menschen Son ist komen zu suchen vnd selig zu machen, das verloren ist. (1546.)
- 47) 小川治郎 : ルカによる福音書注解 一五・一七 いなくなった羊の譬。出典の新約聖書は註 35) に既述。
- 48) Die Erklärungen zu Luk. 15, 4 – 7. In : Jubiläumsbibel mit erklärenden Anmerkungen 出典は註 22) の通り。
- 49) Ralph Earle: The Gospel According to St. Luke Chapter 15 8. Three Parables on Lostness b. The Lost Sheep In : The Wesleyan Bible Commentary vol. 4. 1964.
- 50) 註 47) と同じ。
- 51) 三好 迪 : ルカ伝一五・八 ― 一〇 「無くした銀貨」のたとえ。高橋 虔・B. シュナイダー監修 川島貞雄・橋本滋男・堀田雄康編 : 新共同訳 新約聖書注解 1 1992。  
Eine griechische Drachme galt so viel wie ein römischer Denar (etwa 70 pf). Die Erklärung zu Luk. 15, 8 In : Das Neue Testament von L. Albrecht 本書は註 32) に既述。  
Denar (δηνάριον) はマタイ伝 20 章 2 節で用いられているのであるが, Luther

は Drachme (*δραχμή*) にも Denar にも, Groschen を対応しているのである。

Matth. 20, 2

vnd da er eynis wart mit denn erbeyternn vmb eynen grosschen zum taglohn, sand er sie ynn seyney weynberg. (1522.<sup>1</sup>)

Vnd da er mit den Arbeitern eins ward, vmb einen Grosschen zum Taglohn, sandte er sie in seinen Weinberg, (1546.)

- 52) Die Erklärungen zu Luk. 15, 8 – 10. In : Jubiläumsbibel mit erklärenden Anmerkungen 出典は註 22) に既述。
- 53) 小川治郎：ルカによる福音書注解 一五・八 – 一。なくなった銀貨の譬。出典の新約聖書略解は註 35) に既述。
- 54) 註 52) と同じ。  
ところで見付けた銀貨は磨いて、ほかの銀貨と交ぜてしまうと云う記述は、本文にはないのであって、解説で補足されている指摘に添ったものである。
- 55) 榊原康夫：ルカの福音書 (五) 悔い改めた罪人 (一五 1 – 32)。出典の新聖書注解 新約 I は註 23) に既述。  
Die Erklärungen zu Luk. 15, 8 – 10. In : Stuttgarter Erklärungsbibel 出典は註 36) に既述。
- 56) 註 52) の Die Erklärungen zu Luk. 15, 8 – 10. と同じ。
- 57) 塩谷 饒：ルター聖書 IV ドイツ語に定着した聖書の表現。出典は註 13) に既述。
- 58) Die Räuber. Ein Trauerspiel. In : Schillers Werke und Briefe Band 2 Dramen 1 1988.
- 59) シルレル 關口存男訳：盗賊 世界戯曲全集 第 12 卷 獨逸篇に収録 昭和 3 年。  
「神聖なる教會は、おまへ達迷へる羊をば更に新たなる愛を以てその慈母の如き膝元に引き取り、」
- 60) シルレル 秦 豊吉訳：群盜 世界文學全集 (10) 獨逸古典劇集に収録 昭和 5 年。  
「神聖なる教會は、お前方迷へる羊を、更に新なる愛を以て、母なる膝に抱き上げ、」
- 61) F. シルラア 久保 榮訳：群盜 世界古典文庫 49 昭和 22 年。  
「神聖な教会は、その方たち迷へる小羊を、いやまさる愛をもって、母のごときその膝に迎へ、」
- 62) シラー 実吉捷郎訳：群盜 世界文学大系 18 シラーに収録 昭和 34 年。  
「神聖な教会は、おまえらまよえる羊どもを、よみがえった愛情で、母のひざにだきあげるだろうし、」

- 63) J. Grimm – W. Grimm : Deutsches Wörterbuch 8. Band R – Schiefe 1996 – 97  
Bearbeitet von Leistung von Dr. M. Heyne. 1893.
- 64) 塚本虎二訳：福音書。
- 65) 塚本虎二訳：福音書。
- 66) Die Erklärungen zu Matth. 9, 35 – 38. In : Juliläumsbibel mit erklärenden Anmerkungen.  
増田誉雄：マタイの福音書 g 羊飼いのいない羊（九 35 – 38）。新聖書注解  
新約 I。
- 67) W. Friederich : Moderne deutsche Idiomatik Systematisches Wörterbuch mit  
Definitionen und Beispielen 1. Aufl. 1966.
- 68) J. Grimm – W. Grimm : Deutsches Wörterbuch 4. Band. 1. Abteilung 6. Teil Greander  
– Gymnastik. 452 – 53. Bearbeitet von A. Hübner und H. Neumann in Verbindung mit  
Arbeitsstelle des Deutschen Wörterbuches 1935.
- 69) 註 68) と同じ。
- 70) A. Götz : Trübners Deutsches Wörterbuch Bd. 3 G – H 1939.
- 71) 註 68) と同じ。
- 72) 「ついでに、近頃よくある奴だが、小遣取りに例の批評といふ奴を書いては？」
- 73) 「この頃流行の批評といふものを書いて、小遣取りをやらかしちゃどんなものだ  
と思ったんだ。」
- 74) 「それから小遣かせぎには、ちか頃流行の批評でも書いたらどうかってな。」
- 75) 「おれは考えたんだがね、ひとつ腰をおろして、豆本とか年鑑とかいったような  
ものを書きなぐってさ、小金をかせぐために、当世流行の批評をやったら、どんな  
ものだろう。」
- 76) The Holy Bible containing the Old and New Testaments Translated out of the Original  
Tongues and with the Former Translations diligently compared.  
Authorized (King James) Version の初版の刊行は 1611 年である。併し乍ら調査テ  
キストとした本書は、正書法に照らしても原典の復刻版ではなく、改訂を加えられ  
たものであることは明らかである。但し改訂の年代については記されていないので  
ある。
- 77) 寺沢芳雄：英語聖書の歴史 7. 欽定訳聖書（寺沢芳雄・船戸英夫・早乙女忠・  
都留信夫：英語の聖書 1969 に収録）
- 78) 註 77) と同じ。
- 79) 小野経男：聖書に由来する英語慣用語の辞典 はしがき — 英語に活きる聖書  
慣用語句 — 2011。
- 80) 寺沢芳雄：英語聖書の歴史 8. 18, 19 世紀の英語聖書（英語の聖書に収録）
- 81) 寺沢芳雄：英語聖書の歴史 9. 20 世紀の英語聖書（英語の聖書に収録）



- 82) Luther 訳原典のドイツ語訳は次の通りである。  
Wir giengen alle ynn der yrre, wie schaffe, ein iglicher sahe auff seinen weg, (Der Prophet Jesaja deutsch 1528.)  
Wir giengen alle in der jrre, wie Schafe, ein jglicher sahe auff seinen weg, (Bibel 1545.)  
Der Prophet Jesaja In : Die Deutsche Bibel 11. Bd. Erste Hälfte 1960.
- 83) An etymological dictionary of English language by the Rev. Water W. Skeat, Litt D., D. C. L., LL. D., Ph. D., F. B. A. New Edition Revised and Enlarged. 1909.
- 84) The personal History of David Copperfield by Charles Dickens with introduction and notes by Tadao Yamamoto 1 1954. (Kenkyusha British and American Classics CVIII.)
- 85) 市川又彦訳 (全 6 冊) (一) 1950。
- 86) 中野好夫訳 (全 2 冊) 第一部 1963。
- 87) 石塚裕子訳 (全 5 冊) (一) 2002。
- 88) 田辺洋子訳 (全 2 冊) (上) 2006。
- 89) Duden-Oxford Großwörterbuch Englisch ; englisch-deutsch ; deutsch-englisch hrsg. von der Dudenredaktion und Oxford University Press Red. Leistung : Werner Schloz-Stubenrecht : John Sykes. 1990.